

事務事業マネジメントシート (20年度実績と21年度計画)

21年度予算編成後平成 21 年 3 月 26 日 作成
20年度決算把握後平成 21 年 6 月 30 日 作成

事務事業名	長寿者祝い金支給事業			<input type="checkbox"/> マニフェスト 関連	<input type="checkbox"/> 全庁横断 課題関連	<input type="checkbox"/> 集中改革 プラン関連	
総合計画体系	政策	4	みんな元気で笑顔あふれるまちづくり	所属部	健康福祉部	課長名	後藤博康
	施策	16	高齢者・障がい者の自立促進と社会参加	所属課	高齢者支援課	担当者名	佐藤里佳
	基本事業	47	高齢者の社会参加の促進	所属班	高齢者保険班	(内線)	2114
				法令根拠	老人福祉法第5条第3項 老人の日記念百歳の高齢者に対する祝状及び記念品贈呈要綱(国)		

予算科目	会計	款	項	目	事業連番	<input type="checkbox"/> 20年度で終了	<input type="checkbox"/> 21年度から開始	成果優先度評価結果	11
	1	3	1	4	10444			コスト削減優先度評価結果	6*6

事業期間 単年度のみ 単年度繰返(開始年度 不詳 年度) 期間限定複数年度 (~ 年度)

事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)

【事業の内容】
100歳到達以上の方に、祝い金10,000円及び表彰状を手渡しする。

【業務の流れ】
100歳到達者以上の名簿作成、該当者の所在地の確認、県への情報提供の有無の確認、該当者の県への報告、100歳到達者伝達式の準備、祝い金・表彰状の準備、県・市長・該当者との伝達式日時調整、伝達式同行、広報への掲載。

【主な予算費目】
報償費、需用費、役務費。

1 現状把握の部(DO、PLAN)

(1) 事務事業の目的と指標		21年度計画(21年度に計画している主な活動)(PLAN)
① 手段(主な活動)	20年度実績(20年度に行った主な活動)(DO)	
	該当者22名。	
		⑤活動指標(事務事業の活動量を表す指標)=①の指標 (単位) ア 100歳到達者以上の人数 人 イ 祝い金、表彰状準備数 個
② 対象(誰、何を対象にしているのか)*人や自然資源等	合志市に住民票を有している当該年度100歳に到達者以上の市民。	⑥対象指標(対象の大きさを表す指標)=②の指標 (単位) ア 100歳到達者以上の者 人 イ
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)	100歳の長寿を祝ってもらえる。	⑦成果指標(意図の達成度を表す指標)=③の指標 (単位) ア 祝い金、表彰状を渡した件数 件 イ
④ 上位の目的(さらにどんな目的に結び付けるのか)	地域に仲間がいる。	⑧上位成果指標(上位目的の達成度を表す指標)=④の指標 (単位) ア 老人クラブへの加入者数 人 イ サロンへの参加者数 人

(2) 総事業費・指標等の推移

		単位	18年度 実績(決算)	19年度 実績(決算)	20年度 目標(当初予算)	20年度 実績(決算)	21年度 目標(当初予算)	22年度 (目標)	23年度 (予定)	全体計画 ~ 年度	
投入量	事業内訳	国庫支出金	千円							総 ト ー タ ル コ ス ト (期間 限定 複数 年度 のみ 記載) 0 0 0	
		都道府県支出金	千円								
		地方債	千円								
		その他	千円								
		繰入金	千円								
	(A) 事業費計		千円	668	254	386	242	396	420		420
	うち指定経費		千円								
	うち時間外、特殊勤務手当		千円								
	人件費	正規職員従事人数	人	3	3	3	4	3	3		3
		延べ業務時間	時間	48	132	52	114	56	56		56
(B) 人件費計		千円	191	525	207	454	223	223	223		
トータルコスト(A)+(B)		千円	859	779	593	696	619	643	643		

指標	単位	18年度 実績	19年度 実績	20年度 目標	20年度 実績	21年度 目標	22年度 (目標)	23年度 (予定)	22 年度
活動指標	人 個	31	25	33	22	30	37	37	目 標 合 計 数 計 画 22 年 度
対象指標	人	31	25	33	22	30	37	37	
成果指標	件	19	23	33	22	30	37	37	
上位成果指標	人	3738 (4396)8325	3700 4611	3850 (4857)9200	3330 (4700)7854	3900 (5089)9640	3950 (5205)9860	4000 (5300)9950	

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等

① この事務事業を開始したきっかけは何か?いつ頃どんな経緯で開始されたのか?
国の100歳到達者記念品贈呈及び伝達式に併せ開始した。

② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか、開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?
5年前から対象者は増加している。
国が100歳到達者伝達式を行っているため、全国の県や自治体で100歳到達者へのお祝いは何らかの形で実施している。
100歳以上の長寿者は国・県・市町村で最長寿者の発表をしている。

③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか?
国の表彰伝達や県からの懸念品、市からの祝い金・表彰状を手渡された長寿者や家族からお礼の言葉があった。

事務事業名	長寿者祝い金支給事業	所属部	健康福祉部	所属課	高齢者支援課
-------	------------	-----	-------	-----	--------

2 評価の部(SEE) *原則は20年度の後評価、ただし複数年度事業は20年度における途中評価

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？	<input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 <input type="checkbox"/> 結びついている ⇒【理由】 毎年100歳到達者以上の方を直接訪問し、市から長寿を祝ってもらっていることにより、家族が長寿を祝う。
	②公共関与の妥当性 なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？	<input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 <input type="checkbox"/> 妥当である ⇒【理由】 100歳到達者のお祝いは平均寿命が延びた現在でもその対象者は限られており、100年に渡り社会の発展に貢献された方を敬うことで、市民が長寿の祝に関心と理解を深めることができる。 市民が長寿の祝に関心と理解を深めることができることを目的とすれば祝金の額は減額してよい。
	③対象・意図の妥当性 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？	<input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 <input type="checkbox"/> 適切である ⇒【理由】 国が実施する100歳高齢者への記念品贈呈は、100歳到達者を対象にしているため、100歳以上のお祝いについては国と同じ対象者に限定してもよい。
有効性 評価	④成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 <input type="checkbox"/> 向上余地がない ⇒【理由】 対象者が長寿を祝ってもらえること、家族が祝うこと、市の広報で100歳以上の紹介等を行うことで市民が長寿に対し関心と理解を向上する余地がある。
	⑤廃止・休止の成果への影響 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	<input type="checkbox"/> 影響無 ⇒【理由】⇒ 21年度計画(21年度に計画している主な活動)(PLAN) <input checked="" type="checkbox"/> 影響有 ⇒【その内容】 国や県が実施しているのに、市が実施しないのはなぜか、などの苦情が見込まれる。
	⑥類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	<input type="checkbox"/> 他に手段がある ⇒(具体的な手段、事務事業) <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる ⇒【理由】⇒ ⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 100歳到達者を直接市が祝う事業は他にない。 <input type="checkbox"/> 他に手段がない ⇒【理由】
効率性 評価	⑦事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】 祝金や表彰状を直接手渡すことに意義があり、郵送や口座振込みでは意味がなくなる。
	⑧人件費(延べ業務時間)の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど)	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 <input type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】 国や県の基準と同じように、100歳到達者のみとすることにより、事務費や費用が軽減される。
公平性 評価	⑨受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である ⇒【理由】 すべての市民が100歳に到達できないので、不公平といえば不公平である。

3 評価結果の総括(SEE)

(1) 1次評価者としての評価結果	(2) 全体総括(振り返り、反省点)
① 目的妥当性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり ② 有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり ③ 効率性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり ④ 公平性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり	100歳到達時の一回のみにすれば、事務費の軽減になる。 祝金の額については、減額しても目的は達成できると思われる。 100歳以上の高齢者で毎年表彰状を渡して本当に喜ばれているのか疑問である。

4 今後の方向性(事務事業担当課案)(PLAN)

(1) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input type="checkbox"/> 事業統廃合・連携 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(有効性改善) <input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善(効率性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(公平性改善) <input type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない) 100歳到達者のみの祝金と表彰状でよい。 毎等祝金を支給するので、2万円を1万円にしても問題ないと思われる。 1回だけの祝金であれば、5万円から10万円程度に設定してもよいと思うが、金額設定の根拠説明がつかない。	(2) 改革・改善による期待成果(廃止・休止の場合は記入不要)																							
	<table border="1"> <tr> <td colspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持		○		低下			
		コスト																						
		削減	維持	増加																				
成果	向上																							
	維持		○																					
	低下																							

(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策
広報で市の最長寿者の紹介を継続して行う必要がある。長年祝金を受けている人と、1回だけの祝金では受ける金額に差が出てくるので、調整が必要である。

5 事務事業貢献度評価結果(施策の統括課長の総括)

(1) 目的の直結度	5	(直結度高い 1~3 直結度中 4~6 直結度低い 7~9)
(2) 貢献度	10	(貢献度高い 1~3 貢献度中 4~9 貢献度低い 10~12)